

振り返り（前半）

グラフィックファシリテーター 出 村 沙 代

王 まず後半の発表の前に振り返りをお願いします。よろしくお願いします。

出村 後ほどみなさんから感想をいただけるように付箋紙を貼る場所もつくっています。次の休み時間には、ぜひみなさんにはここに参加していただければと思います。みなさんがどう思われたかを思い浮かべながら聞いていただければと思います。

ラムザンさんのお話では最初、動画を使って話されました。コロナで困っていることの話、コロナ禍の対策のご紹介や部屋の広さが礼拝する上で十分あるといった話でした。後半では、4年前に設立された IRCJ について心の拠り所になるようにまた、地域の人と交流できるように、共生できるようにということを熱を込めて話されました。また困っていることは働いている人が帰国してしまい、工事が進まないということをお聞きしました。いろいろありましたが最後、特に困っている方を助けていきたいという今後のお話が印象的だったので色をカラフルに付けさせていただきました。後ほど、みなさんから「ここが私には響きました」と書き込んでいただければと思います。

お二人目の阪本先生のお話です。在留外国人の話、技能実習生の中でまだまだ課題が多いということをお話いただきました。また、台風 19 号の例、西日本豪雨の事例をあげていただき具体的な話の中で「いつ、どこで、何をしたらいいのか」と

いう実際の体験をもとにしたお話をいただきました。実際に外国人がどこへ避難するのか、観光客が帰れないという話もしていただきました。「コミュニケーター」というキーワードが印象的で「外国人と地域をつなぐコミュニケーターが重要である」と書かせていただいています。

3人目の李先生です。発表ではお二人の実際の体験の話をもとに事例をご紹介いただきました。李先生ご自身も何もわかっていない怖さを体験したということで、今回、多様な人の存在やそのつながりをみなさんにご紹介しますというスタートをしてくださいました。一つ目に受け取ったメッセージとしては、突然、災害が起こった時には多様な人たちがたくさんいる方がよい、知恵の宝庫になるということです。またKさんとUさんのお二人の事例では、お二人とも国際結婚で来日されていますが、こうした震災を通じたボランティアの経験を通じて日本語や日本の社会を深く理解することにつながったという話、日本を生きる上で必要な力量を高めたという話をお聞きしました。またUさんの話ではキムチの作り方を教えたり、「経験の裾分けボランティア」を通じて勇気と創造力を引き立てたという話でした。最後に多様性のよさを引き寄せる想像力、想像以上に困っている人もいれば、想像以上にアイデアをもっている人たちもいること、いっしょに乗り越えようとする想像力、そういう可能性を思い浮かべるからこそ、セーフティネットになるのではないかという話がありました。

ここまでが私たちが聞こえた言葉ですが、後ほどの休憩時間

にみなさんにリンクを送ります。そうしますと、みなさんから感想や質問を受けるようになっています。操作方法については後ほどご紹介します。

王 ありがとうございます。では後半の発表は内田晴子さんにお願いします。